

## 特別講演 2

### 「高血圧合併糖尿病患者の治療について ―最新の知見―」

横浜市立大学医学部 内分泌・糖尿病内科学教授

寺内 康夫 先生

糖尿病は心血管イベントのハイリスクであるが、実際には高血圧を合併する場合も多く、糖尿病患者における確実な血圧管理は、厳格な血糖管理以上に心血管イベント予防に非常に有効とするエビデンスが数多く報告されている。JSH2009 では、糖尿病合併高血圧患者について、JSH2004 よりも積極的な介入を推奨しつつ、RA 系抑制薬を一次薬として位置づけている。その背景には、糖尿病合併症に対する RA 系抑制薬のエビデンスが蓄積されてきており、さらに糖尿病の新規発症抑制も示されたこと、メカニズムの面からもインスリン抵抗性やインスリン分泌に対する改善作用が報告されたことが挙げられる。

現在進行中の 2 型糖尿病患者の慢性合併症抑制を目指した大規模臨床試験 J-DOIT3 は、大血管障害の危険因子である血糖・血圧・脂質に総合的に介入する臨床試験であり、管理目標値は HbA1c が 5.8%未満、血圧は 120/75 mmHg 未満、LDL-C は 80 mg/dL 未満である。この試験によって、従来よりもさらに厳格な管理の意義が検証されることになる。

日本の糖尿病患者における総合的リスク管理、特に高血圧管理の現状と課題は何か、糖尿病合併高血圧患者の健康寿命を延ばすために、今私たちがしなければいけないことを議論したい。